

学園だより



弘前大学
Hirosaki University

2017年6月発行

特集

新学期を迎えて

I	巻頭言	
	弘前大学学長 佐藤 敬	2
II	特集 新学期を迎えて	
	各学部長挨拶	4
	新生・在学生の声	10
III	海外だより	22
IV	研究室紹介	24
V	新任教員自己紹介	25
VI	けいじばんコーナー	29
VII	編集後記	30

Vol.190

今年も弘前大学に新入生の皆さんを迎えることができた喜びと時を同じくして、北国津軽の地には素晴らしい春の季節が巡って来ました。多少霞んだ青空を背景に白い雪を湛えた岩木山を遠くに眺め、やがて桜やリンゴの花が咲き乱れ、さらには新緑に満たされるこの時期の津軽の風景を心から愛でたいと感じるのは、言い古されたことですが、長く厳しい冬があればこそというのは間違いありません。ここで気付いたのですが、ここまでの文は「弘前大学学生歌」の歌詞そのものです。新入生の皆さんは知らない歌として入学式ではじめて接したことと思いますが、是非、在学中には折に触れ、口ずさむようになって欲しいと願っています。

入学試験が1月から3月にかけて行われる現在の日本の制

度は、インフルエンザの流行や降雪の影響が危惧されるので、必ずしも理想的ではないと言えますが、それらを克服し、そして大きな努力を経て入学を果たされた新入生の皆さんを心から称え、歓迎したいと強く思います。

しかしながら、最早皆さんにとって大学入学は目的とするところではなく、これからの大学生活を如何に過ごすかが重要であることは言うまでもありません。入学式の告辞でも述べた通り、勉学はもちろんのこと、他にもさまざまな学びの体験を積極的に求めてくださるようお願いいたします。

ここで、私事になりますが、自分自身の学生時代のことを少し披露させていただきたいと思います。私が弘前大学に入学した1969年当時の医学部医学科は2年間の教養課程（医



巻頭言 message



新入生の皆さんに送る言葉 私の学生時代を振り返って思うこと

弘前大学長 佐藤 敬

学進学過程)と4年間の医学専門課程に明確に分かれており、医学進学過程では今よりは多いものの、教養教育の単位だけを取得し、進級試験に合格して専門課程に進みました。従って、特に2年生の後期になると取得すべき単位も残り少なく、自由な時間を持て余すほどでした。そうなるも皆さんも推測する通りかと思いますが、部活と麻雀の毎日、そして頻繁というほどではありませんが、比較的頻度の高い飲み会が主な活動になりました。でも、そんな毎日だからこそ、一人の時間は読書と、僅かながら、まったく別領域の勉強にも費やしていました。

私が学生の頃、弘前には「花邑」という本と手芸用品を売っていて、喫茶部もある少しおしゃれな店が今の紀伊国屋書店の近くに存在していました。それほど大きな本屋さんではなかったのですが、専門書以外はそれなりに揃っていて、しかも本を買うと綺麗な独自のデザインのカバーに包んでくれたのです。なんとなくそれが嬉しくてよく利用していました(その頃は大学生協売店の販売書籍は指定教科書だけだったと思います)。また、別領域の勉強としては大塚久雄という先生の著した経済学の教科書を少しだけ勉強していました。経済学などまったく理解できず、何の役にもたなかつ

たのですが、その教科書のほんの一部でも解ると大いに嬉しかったものです。こう書くと、勉強したことを誇るように思われるかもしれませんが、自由な時間が多かったが故に少しだけ大学生らしいことに時間を遣うという自己満足であったように思います。その代わり、3年生になって専門課程に入ってから勉強の対象が明確になり、部活の先輩にも刺激されて基礎医学の勉強を、これも少しずつ、自分で進めていきました。もちろん、部活は同様のペースで続け、麻雀と飲み会は少し減ったものの、ずっと続けていました。映画館も市内に多数点在していて、学生時代は洋画の封切をほとんどすべて観ていたと思います。喫茶店の数も人口比で言うと全国有数だったそうです(今では相当減ったものの、弘大カフェをはじめとして、市内にはおしゃれな喫茶店がたくさんあります)。

自分の学生生活を振り返って感じることは、上にも述べた「花邑」や、当時は北日本でも有数の規模であった「今泉書店」があり、映画館も充実していて、大学も市街地にあり、しかも今の言葉で言うコンパクトシティそのものであった弘前の地で学生生活を送ることができたのは本当に幸いだったということです。(因みに、弘前には北日本有数の規模を誇

る「今泉書店」と、東北最古の本格的デパートである「かくは宮川」があることは北海道でも結構知られていました。函館で高校2年生だった時に一度弘前を訪れたことがありましたが、「今泉書店」で、函館でも買える「若い人」(石坂洋次郎作)の文庫本を購入し、「かくは宮川」の屋上で遊んで帰ったこともありましたが…。その時は弘前に住むことになるとは考えていませんでしたが…)

この文の趣旨は、新入生の皆さんに向けて私の昔話を披露するものではなく、弘前は伝統のある文化的な街であり、学都と呼ぶに相応しく、学生生活を送るのに適した所であるということです。今でも市内には、街の規模には必ずしもマッチしない大きな書店が2店舗もあり、私の学生時代より更に

高等教育機関が増え、弘前大学の学生数も倍になりました。外国からの留学生も以前よりは大幅に増えています。また、例えば今年も10月に予定されている弘前大学総合文化祭には、毎年多くの市民に訪れていただき、弘前市の大きなイベントの一つになっています。地域の方々は弘前大学と弘前大学生に注目し、期待して下さっています。もう50年も昔になろうとしている私の学生生活は既に古臭いもので、参考にして欲しいとは思いませんが、新入生の皆さんには、この弘前の地において、弘前大学で学ぶことを心から楽しみ、有意義に過ごして欲しいと願っています。そして、スマホやパソコンばかりではなく、新聞や書籍に大いに



親しんで欲しいと、これについては“切に！”願っています。

麻雀や飲み会を推奨するものではありませんが、皆さんを取り巻く環境は、高等学校までのそれに比べると大きく多様化し、いろいろな機会も増えています。弘前大学には全国から学生が集まり、さまざまな学問を専門とする教員も多数在籍しています。外国からの留学生は今後も増えていくのは間違いなく、皆さんが外国に留学する機会も多く

なるでしょう。皆さんは、これらの恵まれた環境を大いに活用して多様な学びを経験し、やがては社会人として活躍するためにしっかりと自らを育てて欲しいと思います。そして、弘前大学で学ぶことのできることを幸いに思い、皆さんのご家族をはじめ、これまでお世話になった方々、そして社会全体に感謝する気持ちを忘れないで下さい。

お一人おひとりが、実り多い学生生活を送るよう願って、新入生の皆さんに送る言葉とします。





人間は社会的動物である

人文社会科学部長 今井 正浩



新生の皆さん ご入学おめでとうございます。人文社会科学部長の今井と申します。専門は、西洋古典学（ヨーロッパの文化的源流にあたる西洋古典古代の原典を研究する学問）です。よろしく願いいたします。

弘前大学人文社会科学部（Faculty of Humanities and Social Sciences）は、平成28年4月に人文学部から改組され、本年度で2年目を迎えます。平成29年4月には、総勢で271名の新生諸君を本学部の第2期生としてお迎えすることができたことは、学部長として喜ばしいかぎりであります。皆さんを心より歓迎いたします。

ここで、あらためて強調させていただきたいのは、わたくしたちが人文社会科学部を設置した目的はきわめて明確であるということにあります。すなわち、人文学部が北東北地域の人文社会科学分野の高等教育と研究の拠点として、過去50年間にわたってはたしてきた役割をより大きく充実発展させることにあります。それは、多様性認識のもとで自国の歴史文化を正しく理解し、地域の文化を含めた自国の文化を創造・発信する力を養うとともに、地域の諸課題を含めた現実の課題を解決するための実践力をそなえた、次世代の担い手となりうる人材をしっかりと

と育成していくということにつきま

す。わたくしは、1996年4月に、当時の人文学部に西洋古典学の専任教員として赴任してきました。北国特有の厳しい自然環境の中で、多くの先人たちによって長い年月をへて、脈々と育まれてきた豊かな歴史と文化に深い感銘を受けました。ここで、皆さんにお伝えしたいのは、青森県の地方色豊かな文化をはじめとして、いかなる文化も短期間のうちに現在のような姿かたちを発展したのではないということでもあります。「ローマは一日にして成らず」という諺は有名ですが、今、皆さんが何気なしに立っておられる地面にしても、おそらく、太古の時代から人や物が行き交うことによって、長い歴史を刻んできたという事実があるということです。

皆さんは、北東北の文化の香り豊かな弘前市において、大学生活を送られることになるわけですが、先人達が築いた歴史の重みを実感しつつ、真摯に勉学に励んでいただきたいものです。弘前大学は、皆さんのそのような思いにしっかりと応えてくれるはずですよ。

冒頭に引用した「人間は社会的（政治的）動物である」という言葉は、紀元前4世紀のギリシアの哲学者アリストテレス（384-322 BC）

の『政治学』の一節です。高等学校の倫理の教科書にも見えるこの一節は、「社会とのかかわりをとおして自己を実現していく」という人間の本質を的確にとらえた言葉として有名です。わたくしたちは、人間関係の緊張の中で、ともすればストレスを抱え込みがちですが、実はそのような他者との関係性の中にこそ、自己をしっかりと見つめ直し、自己を成長させていくための糧が用意されているということをアリストテレスの一節はわたくしたちに伝えてい

ます。新生の皆さんは、大学という新しい生活環境のもとで、新たな人間関係を築いていくことによって自己を大きく成長させていっていただきたいものです。人生に人間関係での緊張はつきものです。もし、何か課題に直面して心が折れそうになったとき、あらためて、このアリストテレスの一節を思い出して下さい。

皆さんが、弘前大学において、心身ともに充実した学生生活を送られることを心より願います。



大学での学び

教育学部長 戸塚 学



皆さんご入学おめでとうございます。そろそろ大学での生活にも慣れたところでしょうか。それとも、まだ戸惑いと不安の中で、決められたスケジュールをこなすのに精一杯でしょうか。そんな皆さんに、今後、大学を自分自身のためにどう活用するか、考えていただきたいと思います。

皆さんご承知のとおり、大学は学問の場であります。大学と小中高等学校との大きな相違点は、「教わる」ことから「自ら学ぶ」ことへ大きくシフトすることにあります。したがって、大学の価値は、「自ら学ぶ」ための施設や題材、そして学ぶ意欲を刺激する教師や仲間などの環境が整っているかにあると考えます。

教育学部には、専門的な知識・技能を習得して、学習者を支援することのできる教育プロフェッショナルを養成するための教育体制が整っています。その上で、高い資質を持った教員ならびに、教育的視点を持って地域で活躍できる人材の養成を目的として、特に「専門力の充実」と「実践的指導力の強化」をめざし、教育研究に邁進しております。皆さんが自分の将来のためにどのように大学を活用するか、その結果として、学校教員に必要な知識やスキル、ものの考え方をどのように身に付けるかについて考えるとともに、行動を起こしてみたいかがで

しょうか。

まずその契機は、大学生活の根幹をなす授業にあります。

大学では、自分で年間の授業計画を立て、自らが進んで学習することが基本となり、90分が1授業時間となります。そして、それぞれの授業には90分の予習復習の時間が付いていると考えて下さい。大学では宿題等はほとんどありませんが、授業に関連する学習の時間として、時間を有効に使用してください。繰り返しますが、大学入学は、勉学を強いられる「勉強」のゴールであるとともに、自ら課題を持ち、その解決のために真理を探究する「学問」のスタートでもあるのです。

ところで、皆さんは4年後に社会に出る自分を想像したことがありますか？

教育学部に入学した皆さんは学校教員を目指す訳ですが、教員採用試験に1回で合格した場合、4年後の今、教壇に立って子どもたちに向かっていくことになります。すなわち、皆さんはこの4年間で「教わる側」から「教える側」に立場を変えることとなります。このことをイメージして学生生活を送っていただきたい。教員としての基礎を築くために教養教育や学部基礎科目で幅広い知識を習得し、そしてその後、教育臨床科目やサブコース科目

により、自分が目指す教員としてのフィールドの専門性を高めます。幅広い知識は、多様性を理解する上で必要であり、教員として子どもとの信頼関係を築いたり、同僚や周りの人々と協働して物事を取り組んだりするための礎になります。一方、それぞれの持つ専門性は、職場における自分の役割を明確にするためのスキルになります。大学で培った幅広い見識と確かな専門性を糧に、様々な人々と協働し、一体化し、変化する教育現場へ対応できる教員に育っていただきたいと考えます。

大学生活の4年間は、皆さんが想像している以上に早く時間が過ぎます。私自身、この3月に5名のゼミ生を送り出しましたが、大学生活において、1年時が最も長く感じられ、2年時の後期以降は、まさに「光陰矢の如し」、あっという間に時間が過ぎた事を皆が口にしていました。このようなことは高等学校でも経験されていることと思います。学年進行に従い、時間が加速するよう感じられる4年間ですが、自らの行動や考えにより「時間の使い方」「自分を取り巻く環境」とともに学ぶ仲間が如何様にも変化します。それが大学というところです。変化する自分を楽しみつつ、有意義な学生生活を実現することを期待します。



無知こそ力なり

医学部長 若林 孝一



日本の伝統美は「雪・月・花」に象徴されます。月は地球上のどこからでも見ることができますが、弘前には美しい雪景色があり、日本一の桜があります。このような地で学ぶことができる新入生の皆さんは幸せだと思います。

さて、弘前大学医学部は1944年に青森市に設立された官立青森医学専門学校を母体としています。この青森医専は戦災により、その存続が危ぶまれた時期もあったのですが、弘前市に移転して命脈を保ち、1948年に弘前医科大学に昇格し、1949年には弘前大学医学部となりました。東北では二番目に設立された医学部であり、これまで医学科では約6,400名の卒業生を世に送り出してきました。

私自身は学生の頃にもっと勉強しておけばよかったと思う一人ですが、学生の頃に読んだ『医学免疫学(狩野恭一著)』に書かれていた「天が下には全く新しいものは存在しない」という言葉が忘れられません。新しい学説が斬新かつ唐突なように見えても、その誕生には基盤となる観察や理論があるのです。星新一は『種の起源』の誕生秘話を以下のように紹介しています。ダーウィンはビーグル号という船で世界を見てまわり、生物は長い年月のうちに変化し発達するという確信を得ました。

すなわち、進化です。しかし、なぜ生物は進化するのか、その理由がわかりませんでした。そんな時にめぐりあったのがマルサスの『人口論』でした。食料の供給を上回る早さで人口が増加すると、ある時期を境に人口は減少に向かうという学説です。それを讀んだダーウィンは、その原則は生物全般に適用できるのではないかと考えました。つまり、生きるための競争が常に行われ、生物は環境に適ししやすい形へと変化してゆくというものです。これが『種の起源』を生むことになりました。今後、皆さんは長い時間をかけて教養を身につけてゆくことになりませんが、知識を個性的に組み合わせることが、独創性につながります。

現在、全国には82の医学部があり、すべての医学生が卒業時まで身に付けておくべき必須の能力(知識、技能、態度)として医学教育モデルコアカリキュラムが定められています。最近の改定では「多様なニーズに対応できる医師の育成」が掲げられています。病気の診断や治療はもちろん重要ですが、予防医学の観点から病気の背景を考え、運動や栄養、食育についても学ぶ必要があります。また、医師の95%は臨床に従事していますが、5%は基礎医学や社会医学、法医学、さらには行政といった多様な領域に進んでい

ます。将来的に多様な選択肢の中から自身の進む道を選んだ後においても、医学的関心を幅広く持ち、臨床医になってよりサーチマインドを持ち続けることが重要です。そして、一人の社会人として高い倫理観と教養を有することが求められます。そのためにも「自ら学ぶ」という意識を持ち続けてほしいと思います。「無知こそ力なり」という言葉があります。知らないことが恥ずかしいではありません。知ろうとしないことを恥ずべきなのです。

学生時代でなくてはできないこと。それは学問だけでなく、クラブ活動などを通して多くの人と出会い、様々な経験をし、個性を磨くことです。医師を目指す者は利他的であるべきであり、自分の殻に閉じこもることで安寧を見出すような態度は許されません。自分とは異なる考えや嗜好を持った人間も多いのであり、医療の世界では、そのような場合であっても共通の目的意識を持ってチームとして行動することが求められます。異質なものを受け入れ、交流へとつなげることが重要なコミュニケーション能力です。

卒業式では皆さんの大きく成長した姿が見られることを願っています。



新入学生のみなさんへ

医学部保健学科長 木田 和幸



新入学生のみなさん、入学おめでとうございます。皆さんがここに至るまでには、ご家族、友人、先生や関係者から多くの支援を受けたことを改めて思い出すことと思います。これからは新たな出発として、更なる目標に向かって進むこととなります。

多くの皆さんは、自身の生活の中に先端技術を用いたパソコンやスマホなどをはじめとする電気・電子機器が既に入り込んでいると想像しております。技術立国を標榜する日本にあっては至極当然の状況と思えますし、これらの状況は日常生活の利便性を知らないうちに高めてまわっております。上述の電子機器等は電子技術の利用というよりは電子機器の利用であり、使用者がその技術を理解し利用しているわけではないことは誰しもが承知していると思えます。一方、スマホなどの利用により、誰でも容易に単語やその意味を検索することや多くの情報を入手・保存することが可能となり、本来記憶すべき項目を覚えなくても済むような状況が生まれているのではないかと考えられます。これまで受験勉強で主として記憶や理解という訓練を行ってきた学生さんにとっては、誠に不向きな状況と言わざるを得ないのではないのでしょうか。今で

はインターネットを通じて必要な情報を選択しながらも簡単に入手できます。情報そのもののグローバル化が進んでいるこの時代であるからこそ、情報という深く広い渦の中でも自分を見失うことなく、自分の位置をしっかりと確保しながら、目標に向かって進んでいってほしいと思います。

学生としては、教養をより深くそして広く身につけ、専門的知識技術の修得を目指すことが基本となりますが、皆さんの欲求はこれだけでは留まらないでしょう。自分の興味のあるいろいろな場に参加し、いろいろな人と会うことと思います。また、それによりいろいろな形での繋がりが生じてきます。このことは後にいつしか大きな存在として浮かび上がってくる新たな友人の形成へと発展していくものと思われます。弘前大学に入学した皆さんには、学生として、自分が納得し満足できる充実した学生生活を送って頂きたいと希望しております。

弘前は四季を通して、弘前さくらまつり、弘前ねぶたまつり、弘前城菊と紅葉まつり、弘前城雪灯籠まつりが開催され、岩木山を背にゆったりとした時の流れを感じさせるところです。その周辺の多くの人々は弘前大学の「学生さん」を見つめてお

り、「学生さん」とのつきあいを熟知している方ばかりです。このような状況の中に存在する弘前大学で充実し満足できる学生生活を送り、更なる新しい自分の目標に向かってみては如何でしょうか。

保健学科、保健学研究科は、保健医療福祉の一端を担いながら社会で活躍し、社会に貢献しようとする皆さんの入学を、心から歓迎いたします。



基礎科目はつまらない!?

理工学部長 加藤 博雄



新入生が輝く春、キャンパス内が人で溢れ華やぐ季節です。彼等にとって大学は初体験の連続、戸惑いながらも刺激の多い場所なのでしょうね。大学の講義一つとっても90分授業や予習復習がセットになった単位制、自分で設定する時間割等々、結構悩むようです。（これはすぐ慣れますが。）ただ、講義を行う側としては、質問攻めにあうほどやる気に満ちた方々を相手に講義出来ることは、結構楽しいことなのです。そんな彼等も前期が終わる頃になると質問も減り、目立たなくなります。講義内容が理解され始めたのかと思うとそうでもありません。専門基礎科目は難しい、つまらない、なんて声も聞こえてきます。さてさて、どうしたものか？

理工系の専門科目は基本的に積み上げ方式です。幾つもの専門基礎科目のしっかりとした理解を土台に、後の専門科目は組み立てられています。しかし、専門科目の履修に入った学生から聞く言葉は毎回同じ、「あの時、基礎をしっかりとっておけば良かった！」というものです。講義内容が、より専門的に、より先端的になればなるほど、基礎の重要性を認識するようになります。そこで教員がカリキュラム作成時に考えることは、最初から基礎をしっかりと教えられるようにと時間を掛ける

設計にしてしまいがちです。もちろん、基礎を学ぶ必要性を示せるように動機付けのための導入部や科目を配してはいますが、これもなかなか伝わらないようですね。かといって、いきなり専門科目に入るといっても記憶だけの雑学としてはあるのかもしれませんが、何の基礎知識もない状態では理解どころか、未消化の方を増やすばかりでその先には繋がりません。

結局、カリキュラム構成は従来通り、即ち、ある程度の理解でもよしとして基礎を終え専門に入る訳です。それはそれなりに基礎の必要性を認識したところでオフタイムに基礎を再学習し、スポンジが水を吸うように基礎の理解度を急速に上げていくというのでも良いのかもしれませんが。最近の傾向は基礎の履修に、より時間を掛けるものとなっています。しかし、いろいろなものをそぎ落とし抽象化した基礎のまともな理解は難しく興味を失い易くて、案外、さらっと進めた方が良いのかもと思うのは私だけでしょうか。この歳まで講義を続けてきて、毎回のように基礎に対する私の理解は不十分だったと思い直し、再度読み込みを行うというのが常となっています。故郷を離れて初めて故郷を知るように、上位の階層に出ないと下位の階層は充分理解出来ないのかもしれま

せんね。基礎がつまらないと思ったら、一度その先、専門の教科書を読んでみて下さい。新たな興味が湧くかもしれませんよ。

ついでながら、私の専門、物理には知る人ぞ知る「ファインマン物理学」という名著があります。高名な物理学者、ファインマンがカリフォルニア工科大（CalTech）で初めて基礎科目を受け持った時の講義ノート集という形態ですが、まずは基本から入りその論理を展開して、さて、こんな実例を解いてみましょうといったスタイルで書かれており、お奨めのシリーズです。ただ、惜しむらくはご本人が前書きに書かれているように、「出来る人」を対象にしていること、初心者には難しい内容です。（事実、1,2年生向けの講義にもかかわらず、CalTechの院生や教員が聴きに来たという逸話が残っています。）初心者向けのそのような教科書はないのかと探してはみたのですが、今のところはみつかりません。もっともそれを使った際にはかなりの時間を更に掛けないといけなくなりますが・・・。



夢を探そう

農学生命科学部長 佐々木 長市



御入学おめでとうございます。
弘前の地は、津軽藩の城下町として栄えた文化の薫り豊かな街です。春には、弘前城の桜祭り、夏にはねぶた祭り、秋には白神山地や八甲田などの紅葉が楽しめます。冬には、スキーなどのスポーツが楽しめる極めて自然豊かな環境に恵まれております。こうした恵まれた環境で勉強できる皆さんは幸福であると感じております。

皆さんは、入学に際し、いろいろな夢を持っていたと思います。あるいは、明確な夢を持たずに何となくという方もいるかと思います。しかし、4年後あるいは6年後には新しい道を歩むこととなります。その時までには、夢の充実あるいは自分の夢を見つけ出してほしいと思います。

夢を持っている方は、この夢の実現に向けた努力をする学生時代であることを期待します。また、夢の具体化のための目標を考えて行動してもらいたいと思います。夢を持たずに、何となくの方は、アルバイトなどいろいろなことに挑戦し、自分の適性や夢を探し、数年後には、夢を持ち、この実現に向けた目標に取り組めるようにしてほしいと思います。今は、夢の実現性が低くても、その目標に向け努力している人が、その夢に近づいているようです。皆

さんは若いので、今後大いに伸びる可能性を秘めています。こうした夢の実現あるいは夢を見いだすために、多くの本を読み、友人と語り合い、その中身を充実させてください。

同じ専門を語り合える学生時代の友人は、将来も貴重な仲間となります。仕事に悩んだとき気軽に質問や意見を交すことができ、かつ夢の実現には欠かせない存在となることでしょう。大学生の間にできる限り多くの友人を持つことを期待しております。また、弘前大学は総合大学ですので、専門分野の異なる学生との交流ができます。できれば、専門の枠を越えて、あるいは異なる視点で夢を語り合える友人を探してほしいと思います。与えられた環境を最大限にいかし、夢の実現あるいは夢を見つけ出してほしいと願っております。

夢に向かって努力するのは大変なことだと思います。こうしたことを実現するときには、時として、諺なども有効な心の支えとなると思います。私は、座右の銘の一つとして「ローマは一日にしてならず」を心に留めております。皆さんも何か座右の銘を持ってみては如何でしょうか。先人の諺は、時代を超えて我々の生き方に大きな示唆を与えてくれていると思います。

最後に、新しい暮らしの始まりに際し、このような教育の機会を与えてくれた御両親や先生方に対し、感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。



川上実穂子

人文社会科学部1年

大学生になってやりたいこと

弘前大学に入学してから、1ヶ月と少し経ちました。履修登録も済み、講義も進んでいます。入学したばかりの頃は分からないことだらけで、加えて私は北海道の実家を離れ、今まで何の縁も無かった弘前で暮らし始めたので、とても不安でした。しかし今は少しずつ慣れ、落ち着いて日々を送れるようになってきているのを感じます。

私は大学生になったらやりたかったことが2つあります。まず1つは、本を読むことです。私は元々本を読むことが好きで、特に小説を読んできました。しかし大学生ともなれば、小説だけではなく、学問に関わる本を読むのは当然であり必要なことであると、この1ヶ月で感じました。人文社会科学部に所属しているなら尚更です。よって私は、これからは学問に関わる本を積極的に読んでいきたいです。そして、今まで興味はあったものの他の小説に気を取られて読んでいなかった日本や海外の近代文学や古典作品にも手を伸ばしていきたいと思います。

2つ目は、津軽三味線を弾けるようになりたいということです。理由は、せっかく弘前に来たのだから、ということと、何か1つ楽器が出来れば楽しいだろう、と思ったからです。楽器を持つのは中学以来なのでまだ慣れないところですが、練習して先輩方のような演奏ができればいいなと思います。

これからまた、違うことをやりたくなるかもしれませんが、何にしろ貴重な大学4年間に有意義に過ごしていきたいです。



佐藤 拓弥

人文社会科学部1年

こんにちは

弘前大学に入学して、一か月となりました。ようやく一人暮らしの生活に慣れ、家事がスムーズにできるようになりました。また、新しい友達ができ、毎日楽しい生活を送っています。

私は、大学生活で新しいことに挑戦したいと考えています。それは、部活やバイト、高校時代とは異なる勉強などです。部活では、私は探検部に入部しました。探検部の活動を通して、今までに見たことのない景色を見たり、新しい経験をしたりしたいです。バイトでは、まず自分でお金を稼ぐという経験をしたいと考えています。今までは経済的な面で親に頼り切っていたので、自分で稼いだお金でほしいものを買いたいです。勉強では、これまでとは違い、主体的な学習を心掛けたいと考えています。気になったことを調べる習慣を身に付け、卒業するまでに社会人としてふさわしい教養を身に付けたいです。また、レポートなどでは、自分の考えをよりわかりやすく伝えるにはどうすればよいか考え、よりよいものを作り上げたいです。

大学生活の4年間は、様々なことに挑戦し、充実させたいと思います。そして、大人になってから振り返り、後悔がないと思えるようにしたいです。



松浦 舜

人文社会科学部1年

貴重な時間を大切に

4月に弘前大学に入学し、大学生活を一ヶ月送ってみて自分なりに感じたことは、高校生までの生活と比べて、自由な時間が圧倒的に多いということです。

高校までと違い授業が一日中あるわけでもなく、人によっては一日丸々休みということもあり、また、校則等のルールも少ないため、自分の思うように行動できます。

そのため、大学生活4年間がどういうものになるかというのは、自分自身の行動によって決まると私は思います。

様々な体験をして将来の基礎作りに繋がるような大学生活を送るか、何の目的もなくただただと過ごして大学生活4年間を無駄に過ごすか、私は断然前者を選びます。

具体的には、様々なサークル活動に参加することで自分の視野を広げたり、英語の勉強を積極的にしてTOEIC等のテストに挑戦することで自分の英語のスキルを高めたり、高校では忙しくてできなかったバイトやボランティア活動をするなどして、自身のスキルアップに繋がるような行動をしていきたいです。

これからの大学生活、将来の自分のためにも4年間という貴重な時間を無駄にすることなく、今しかできない様々な体験をすることで、少しでも将来の自分の糧になれるように頑張っていきたいです。



熊谷 一輝

人文学部3年

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生としての新しい生活にも慣れてきている頃だと思います。大変恐縮ですが、応援メッセージを送らせてください。

大学生活はこれまでの学生生活と比べ、とても自由な部分が大きいです。そのため、多くの選択肢の中からどれを選ぶか決断しなければなりません。この時、何も考えずに人に流されてしまうのはもったいないです。

これから先、数ある選択肢の中から今よりもずっと大きな決断を下し、その決断や自分の行動に責任を持たなければなりません。そんな時、決断を他人に任せることはできません。そのため、今のうちから少しでも自分で考えて決断し、行動することで、自分自身が納得できるような大学生活を送ってほしいです。

時には間違いや失敗もあるかもしれませんが、大学生はまだ学生で、今のうちにしかできないような無茶や失敗をしても全然構わないと思います。また、自分で決断し、努力したものには必ず次につながるものがあるはずなので様々なことに挑戦してください。

改めて書きますが、大学生活は本当に自由です。自分自身で大学生活の4年間を創ることができ、自分次第で楽しくもつまらなくもなります。皆さんの大学生活が充実した素晴らしいものになることを願っています。



早川 太陽

人文学部3年

実りある大学生活を送るために

新入生の皆さん、弘前大学へのご入学おめでとうございます。大学生活にもそろそろ慣れてきた頃ではないでしょうか。

僕から新入生の皆さんに伝えたいことはまず、学びたいことを積極的に学びに行く姿勢を身につける努力をしてみよう、ということです。大学では時間割を自分で作成し、学部学科を飛び越えて様々な分野が学習できます。僕は1年生の時に興味本位で取った歴史学で初めて考古学に触れ、その面白さに惹かれて現在考古学を専攻しています。

何が今後の学習に生きてくるか分かりません。興味を少しでも引かれる講義があったなら、迷わず友達を誘ったりして飛び込んでみてください。知への貪欲さは必ず今後皆さんの糧、力になります。

次に学生生活は楽しく自由だということです。なにも勉強するだけが大学生ではありません。多様な部・サークルがありますので、交友関係を広げるのもいいですし、趣味に時間を割くのもいいと思います。僕の場合は、知らない場所に自転車などで遊びに行くのが趣味の一つなので、課題のない日は色々な場所へ行って景色を楽しんだりします。また僕の友達も学生ボランティアなどの活動に勤しんでいます。大学は自分の好きなことに取り組める場所です。

しかし僕自身感じていることですが、入学してからは月日があっという間に過ぎ去っていきます。卒業する時に「自分は何を大学で学んだのだろうか？」とならないように、勉強して遊んで、メリハリのある楽しいキャンパスライフを送れるように祈っております。



三澤 拓海

人文学部3年

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そろそろ大学生活に慣れてきた頃でしょうか。

大学では今までの学生生活とは違い、自由な面が増えると思います。しかし、それは能動的に行動することが増えるということでもあります。受講する講義の選択やサークル活動、アルバイト等様々な部分で実感することでしょう。これは自分のやりたいことができるチャンスであるということです。例えば、自分が研究したいことを講義で学ぶことができます。高校まではほとんどの授業が固定されていたので、自然に受動的な態度になっていた人もいますが、大学は違います。多くの時間割を自分で組むことができるので、積極的に講義に参加できるでしょう。また、サークル活動等で交友関係を広げたり、アルバイトで社会経験を積んだりと他にも大学でしかできない貴重な体験も可能です。

しかし、それらの機会も能動的でなければ得ることはできません。いつまでも受け身のままで、それらを逃してしまうのもしばしばです。けれど、自由とは責任が伴うものなので、それは自己責任に他なりません。ですので、なるべく多くの機会を見つけ、色々なことを経験してみてください。きっと、それは皆さんの力になるはずです。

皆さんが悔いのない、充実した大学生活を送ることを願っています。



齊藤 侑花

教育学部
教育教員養成課程1年

充実した大学生活に

はじめの一ヶ月間は履修登録に教科書購入など、他にも大学生活の基礎を整えるために慌ただしいものでした。ですが今では入学前の自分が考えていたよりも、充実していて意義のある生活を送れていると感じます。

私は高校三年生になるまで、どんな職業に就きたいかを定めることができませんでした。自分の向いている職業がいいのか、自分の好きなことを仕事にするべきか判断しきれず、漠然と将来のことを考えていたためです。しかし考えが定まらない中、尊敬する二人の先生が大きなきっかけとなったのです。一人は中学校時代の担任の先生で、生徒一人一人を気にかけて熱心な指導をされる方でした。もう一人は高校の国語教諭で知識に長けており、おかげで私たちのクラスは国語力が飛躍的に伸びました。この方は弘前大学の出身で、私に弘前大学を薦めてくださった方でもあります。私は二人のように自分の好きなことを生かせるだけの知識をつけ、高校の教諭になろうと決めました。

弘前大学教育学部は多数の実習や専門的な講義があり、教諭になるための恵まれた環境にあります。その中で新しいことに触れ、これまでより多くの人との関わりを持つことで大学生活を豊かにし、意義のある4年間にしたいと思います。



奥井 峻太

教育学部
教育教員養成課程1年

これから

弘前大学に入学してから早くも1ヶ月以上が経ちました。この1ヶ月、様々なことがありました。履修登録や介護等体験、大勧誘会、色々な科目の講義。毎日が新しいことの連続でした。しかしそんな日々にも今は慣れ、改めて弘前大学の学生であることを実感しています。

私はこれから4年もの間、教師になるために努力をしなければいけないと思うと自分について行けるのか、本当に目標を実現できるのか不安になることがあります。しかしこれは自分で決めた道です。私が今まで多くの先生にお世話になり、学力的にも内面的にも成長の手助けをしていただいたように、今度は私が次世代の子供たちの成長の一翼を担いたいと決心し、今この地にいます。この決意を貫けるように勉学に邁進していきます。

また、私は勉学と同時に様々なことを経験したいと思います。大学生になり過去とは比べものにならないほど自由になった今、私の周りには数多くの選択肢があります。部活・サークル、バイト、友達付き合い、他にもできる事が山ほどあります。その中で沢山の経験をすることで人間性を磨き、子供たちにその経験を伝えることができたら良いと思います。

最後に、充実した生活を送りたいです。

弘前大学の一員としてのこれから

弘前大学に入学して早くも1ヶ月が経過しました。大学生活にも徐々に慣れてきました。サークルの見学や桜祭りでのお花見など大学生らしいことをこの1ヶ月の間にたくさん経験して、自分もようやく大学生になったのだという自覚を持ちはじめました。

僕は中学生の頃に通っていた塾の塾長と話した時に教師という職業に興味を持ち、それからは教育学部を目指していました。そして、高校時代は教育学部を目標として毎日コツコツ勉強して弘前大学に合格することができました。

こうして、教育学部に入学できたことで、これからどのような教師になるのか、生徒にどのようなことを伝えていけるのか、どの分野を専門にしていけるのか、など様々な不安要素がありますが、この4年間という短い時間を有意義に使って、明確にしていけたらいいと思います。

弘前大学の先生方は変わった方が多くて教科の学習はもちろんのこと、人生の先輩としていろんなことを教えてくれます。このような弘前大学の恵まれた環境、先生方、先輩などたくさんの出会いに感謝しながら、様々なことを身につけ、社会に出ても恥ずかしい思いをしないように、頑張っていきたいと思っています。

明田川 洸太

教育学部
教育教員養成課程1年



花岡 梨紗

教育学部
学校教育教員養成課程4年

「面白そう」を大切に

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

この春、皆さんはどのような大学生活を想像して入学してきたのでしょうか。かくいう私は入学当初、教師になるという夢に一步近づいた喜びが勝り、大学生活自体については深く考えていませんでした。しかし、4年生になった今、大学で何かをすることが大切なのだと感じています。

昨日、構内では授業のガイダンス期間やサークルの勧誘会などがありましたが、皆さんは何か面白そうなことを見つけられたでしょうか。私は新しいことを始める上で「面白そう」と思えることがとても大切だと思っています。始める前には自分の経験や能力、時期などを考え躊躇してしまうこともあります。自分のやりたいことや興味をもてるものを「とりあえず」で始めてみてはいかがでしょうか。数あるものの中からせっかく見つけられたのですから本当に面白いかどうかまでぜひ自分の目で確かめてみてください。出来不出来も、向き不向きもやってみないことには誰にも分かりません。

何を面白いと感じるかはその時々で変わるものだと思います。新入生の皆さんが、大学生活4年間を通じてたくさん興味をもてることを探し、楽しみながら自分の世界を広げていってくださる嬉しです。



高橋 智佳

教育学部
学校教育教員養成課程4年

自由と責任

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生としての日々はどうでしょうか。初めての一人暮らしを楽しんでいる人もいれば、早速アルバイトなど新しいことに挑戦している人もいます。

大学はとても自由なところです。着たい服を着て、学びたいことを学んで、やりたいことをやって、多くの経験を得ることができます。しかし、その自由には責任が伴うものだと私は感じています。限りある大学生活をどのように使うかは私達の自由ですが、その結果何か不都合が起きても誰も助けてはくれません。しっかりと将来のビジョンを持って、常に今やるべきことを見極めていく必要があるのではないのでしょうか。

私は、自分が入学した頃のことを今でも覚えています。今いる友人と出会ったときのことももちろん覚えています。大学生活も、弘前での暮らしも、友人との付き合いも、あっという間に今年で4年目に入りました。来年にはまた生活が変わってしまうのかと思うと、既に寂しさを感じてしまいます。4年間は長いようであっという間なので、ぜひ学びも思い出も充実させてほしいです。



久保田 遙

教育学部
学校教育教員養成課程4年

レッツ チャレンジ☆

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

授業開始日に、理工学部を歩いていたところ新入生の女の子に「教室の場所が分からなくて…」と声をかけられました。まだまだ慣れないことがたくさんあり、不安を抱えながらもこれからの4年間に期待や希望を膨らませるみなさんを見てると、私も入学当時に思い出します。

さて、僭越ながら私からみなさんにお伝えするのは、「やり遂げること・人と関わること」の大切さです。

みなさんはこの先、大学内外を問わず多様な場にチャレンジしていくでしょう。教育実習を終えて、教員になりたいと思う気持ちがより強くなるかもしれませんし、今一度自分の将来を考え直す機会になるかもしれません。

サークル活動では、同じ趣味を持った他学部の人との交流を通して新たな発見を得たり、高校までとは違って自分たちの力で集団を作り上げていくことへの充実感や達成感を覚えたりしましょう。

アルバイトでは、社会人として最低限守るべきマナーを学びながら職場にいる様々な立場の人との関わり方、協働していくことの難しさに気付かされます。

以上のような実感は確実にみなさんを大きく成長させてくれます。4年後のみなさんが、本当になりたい未来の自分を見つけ出し目指すために、多くの人と関わり最後までやり遂げることを心掛けてください。

みなさんの4年間で素晴らしい軌跡を辿れるよう心から願っています。



相内 一朗

医学部医学科1年

弘前での生活の始まり

美しい弘前の桜も徐々に散りゆき、藤の花が綺麗な5月。入学して早一か月がたちました。今年の4月、私は弘前大学医学部医学科に入学しました。

私は青森県生まれの父と韓国人の母のもとに大阪で生まれ、5歳時に母の実家である韓国へ渡り、小中は韓国のソウル日本人学校を卒業し、高校3年間は奈良県の実験制の高校で過ごしました。

進学校でない高校では、周りの雰囲気にも飲まれ学業に集中出来ず、医学部には出願すらできない成績で1度目の大学受験を終え、東京の知り合いの家から予備校に通いました。

しかし、高校卒業時に基本的な学力すら身につけていなかった私は、予備校の授業にもうまくついていけず、勉強量の割にはほとんど学力も上がらず、1浪して迎えたセンター試験も現役時とあまり変わらぬ結果に終わり、2浪目を決意しました。夏までの半年間は韓国の実家で勉強し、夏以降は高校の近くで一人暮らしをしながら、高校時代の先生にお世話になりながら、最後のチャンスにかけて勉強しました。

私が弘前に来たのは、「青森で医者をやってほしい」という父や親戚の想いからです。高校時代から関西の大学しか視野になかった私が、こうやって父の生まれ故郷であり親戚も多く住んでいる青森県で大学生活を送り、将来は青森県で医療を行うことになったのには、何かしらの縁を感じます。

多種多様な仲間に出会えた弘前で、学業に部活動、そして他にもできるだけ多くの経験をして、中身の濃い、一生忘れられないような大学生活を送っていきたいと思います。



片倉 祐希

医学部医学科1年

弘前大学に入学して

私は医師になるために入学しました。ですから、大学生活を通じて医学を中心に多くの本を読み、人と交流し、幅広い能力と深い人間性の修養に努めようと思っています。

入学して早一か月、そろそろというべきかもうというべきか、どこからともなく囁かれる、一年生は遊んだほうがいいのかという甘言が次第に耳に残るようになってきており、自身の気のゆるみを感じます。受験は完璧を目指す人が評価される世界でしたが、大学では何より自分を保ち続けることができ、かつ効率のよい人間がうまくいくようです。

あれもこれもと手を出すと私の如き不器用な人間は溺れてしまいそうなので、一に医学、二に言語と優先順位を決めて取り扱おうと思っています。

左右の誘惑を掻き分け掻き分け勉学一筋に進みたいところですが、高校時代にそれを実践していた身としては、只々勉学のみで努めたところで人付き合いの悪い凡庸な人間が出来上がるような気も致しますので、コミュニケーション能力というなにやら得体の知れない能力を追い求めながら、ほどほどに調和のとれた人間らしい人間になりたいと思っています。



畠山 梓

医学部医学科1年

はじめ

私が医師を志したのは中学生の頃だったでしょうか。高校3年間はなかなか伸びない偏差値に悩み続けましたが、なんとか受験を乗り越え、今こうして弘前大学でスタートラインに立てていることに大きな喜びを感じています。

この大学を選んで良かったと感じることの一つに、独自性あふれる教養科目の選択があります。「青森の○○」などというローカル色の強い授業は他では受けられるものではありませんし、どの授業も他の学部学科の友人との大切な出会いの場になっています。今年は医学分野以外に、音楽や司法などをとりました。幅広い視野や広い交友関係を持つ良い機会ととらえ、積極的に取り組みたいです。

私は中高を通して文化部に所属していました。スポーツには苦手意識しかありませんでしたが、何か新しいことに挑戦したくて医学部卓球部に入部を決めました。卓球部は先輩方がとても親切で、練習に参加するたびに丁寧な指導を頂いています。先日初めての大会があり、素晴らしい試合をたくさん見ました。憧れを原動力に継続していければと思います。

今はまだ新天地での生活に慣れませんが、自分の夢に向かってこれからの大学生活を過ごしていきたいです。



女屋 隼人

医学部医学科2年

大学時代をいかに過ごすか

新入生のみなさんご入学本当におめでとうございます。字数制限もありますので早速本題に入りたいと思います。私は一度他の大学を卒業し、企業で10年ほど働いた後に弘大医学部に入学しました。そんな自分だからこそ伝えられるメッセージを送りたいと思います。私が考える大学時代で必ずしなければならないことは「どういう自分になりたいかを徹底的に考える（医学科生に対しては「どういう医師になりたいか」）」です。ほとんどのひとは大学卒業後に本格的に社会に出て働きます。「なりたい自分像」を考えずに社会に出てしまったひとは、人生の岐路に立った時に迷います。「私の人生これでいいのだろうか・・・」こう思います。そこで方針転換できれば良いですが、年齢を重ねれば重ねるほど選択肢は狭まります（私は最初の学生時代に何も考えずに遊び呆け、その結果、人生の岐路で迷いましたが、なんとか方針転換できました）。さて、実際のところは「なりたい自分」は探していてもなかなか見つかりません。見つける方法は個人によってかなり異なりますが、ひとつ言えることは「主体的な勉強」をすることは正解に近いということです。主体的な勉強は自身の思考能力に磨きをかけ、本当の自分というものを露わにさせます。ですので漫画やゲームを思い切り楽しんでも、まだ余りある時間を使って勉強に励んでください。



寺田 侑真

医学部医学科2年

有意義な学生生活を！

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。初々しい姿を見せていた頃から早くも月日が経ち、そろそろ大学生活にも慣れてきた頃だと思えます。1年生は授業以外の自由な時間もたくさんあり、部活動やサークル活動、趣味に打ち込む人もいれば、専ら勉強に打ち込む人、アルバイトや遊びに多くの時間を割く人など様々いると思います。そこで、僕が新入生に伝えたいことはそのような場で得た人とのつながりを大切にしたいということです。大学は高校までとは異なり、県内・県外から様々な人が集まり、物事の価値観や考え方の異なる人がたくさんいます。自分の価値観を大きく変えてくれるような出会いもあるかもしれません。是非、助け合える仲間、尊敬できる先輩や友人など、多くの人とのつながりを大切にしてください。ただ、もう一つ僕が新入生に伝えたいことは、学生の本業は勉強であることは忘れないで欲しいということです。特に医学科の1年生は2年生から桁違いに勉強が忙しくなります。何のために辛い受験生活を乗り越えたのか、将来どうなりたいたいのかなど入学当初の強い思いを忘れないで下さい。

最後に、大学生生活をどれだけ有意義なものにするかは自分自身で決まります。長いようで短い学生生活、最大限に充実させてください。



中村日和子

医学部医学科2年

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。4月からたくさん初めての経験をして、2ヶ月経つのもあっという間だったと思います。大学生活にも慣れてきたころではないでしょうか。医学生としてまだまだひよこな私ですが、私なりに今までの大学生活で感じたことをお伝えしたいと思います。

思い返すと、1年生として過ごした時間は、今までにないくらいいろいろ楽しめた1年でした。なんとなく過ごしていても、1年はきっとあっという間に過ぎてしまいます。部活やサークルにいそんだり、趣味を広げてみたり、旅行を試してみたり、大学生になった今だからこそ楽しめることがたくさんあります。様々な方面で尊敬すべき人や、自分にとって大切な存在になる人にもたくさん出会えると思います。自分で自由に時間を使える今だからこそ、たくさんの経験をして、たくさんの人と関わって、大切に過ごしてほしいです。頑張るところは全力で、あとは思い切り楽しんで、どんどん新しいことに挑戦してみてください。私自身、1年生で様々な経験をして、高校までとは比べものにならないくらい多くの同期や先輩と関わって、少し成長できた部分もありました。1年生で経験した楽しいことや乗り越えたこと、新しい人とのつながりは、これから先大変なときでも自分を支えてくれるはずですよ。皆さんの大学生活が実りあるものになることを心からお祈りしています。

医学部保健学科



鎌田 桃華

医学部保健学科
看護学専攻1年

これからの大学生活に向かって

無事、受験が終わり、弘前大学に入学して早1か月経とうとしています。まだ慣れない大学生活に私は胸を躍らせています。緊張やわくわくした気持ちが入り混じって、充実した毎日を過ごしています。

この弘前大学で、私は3つのやりたいこと、夢があります。1つ目は友達を作ることです。総合大学ということで様々な価値観の人でキャンパスは活気あふれています。色々な学部の人との交流を深めたいと思っています。2つ目にサークルと勉強の両立です。大学生なので、やっぱりサークルはしたい…けど、勉強は疎かにしたくないので、効率よく両立したいと思います。3つ目は助産師を目指して勉学に力を入れることです。助産師は狭き門だと思っています。精一杯努力したいと思います。

後悔しない大学生活を送りたいと思っています。桜の町、弘前を思う存分楽しみたいと思います。



藤井 寧々

医学部保健学科
放射線技術学専攻1年

弘前大学に入学して

弘前大学に入学して早くも一ヶ月が経ちました。初めての土地での一人での生活に不安しかありませんでしたが、今では大分慣れてきました。

私は高校一年生のときに放射線技師という職業を知り、そこから大学について調べ、オープンキャンパスなどを通して、弘前大学に入りたいと思うようになりました。そのため今第一志望の学校に通うことができているのがとてもうれしいです。しかし、大学に入るだけで終わるのでは無く、これから4年間自分の目標を達成できるように気を引き締めて努力していきたいです。また、大学では想像以上に自分の時間が沢山得られることが分かりました。この時間を無駄にしないように、サークル活動やアルバイトなどを通して、新しい経験をしていきたいです。

まだ大学生活は始まったばかりで、これからさらに忙しくなってくると思います。そして恐らく4年間はあっという間に過ぎてしまうと思います。その中で後悔せず、なるべく沢山のことを学べるような大学生活にしたいです。



陳 彦宇

医学部保健学科
検査技術学専攻1年

弘前大学の一員になって

弘前大学に入学してようやく一週間経ちました。弘前市は日本の最北端、青森県にあるためか、4月になり雪が降ることがあります。私は最初ここに来たのは、受験です。あの時は大雪でした。なかなか移動が不便で、受験するのが大変でした。

なぜ外国である日本に留学しに来たかということ、小さい頃に50音の教科書一冊を読んだことがきっかけで、ずっと日本に憧れを持っていたからです。それにとどまらず、ドラマでの医療関係者のかっこいい様子にも感銘を受けて、勉強熱心でやさしい感じの人間になりたいと決意しました。

臨床検査技師とは、医師の指示を受け、正確かつ丁寧に医学的検査を行う専門家です。このような専門家の魅力は、後ろで人々の健康を支えるような縁の下の力持ち的な存在であることがあげられます。私は、全日本最大規模の保健学科を保有し、さまざまな専門家を育てる豊富な教授陣がいる弘前大学で勉強できることをうれしく思っています。これから弘前大学の一員として、きちんと勉強をし、人間性が豊かになるように多くの教養を身に付け、大学生である自覚を持ちながら歩んで行きたいと思っています。



柏崎 美乃

医学部保健学科
看護学専攻3年

将来に繋がる大学生活を

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新生活は楽しめているでしょうか。一人暮らしを始めたり、自分で時間割を組んだり、何もかもが新鮮な毎日に戸惑いながらも充実した生活を送れていることと思います。さて、大学は様々なことに挑戦し、自分自身をよく知る良い機会だと私は感じています。新しい友達と話す中で、部活や趣味について目を輝かせて夢中で話せる人は輝いて見えませんか。私はこれといって夢中で話せる話題も特になかったのですが、いかに今まで自分に鈍感に生きてきたか痛感させられました。しかし大学では勉強以外に使える時間がかなり増えます。部活やアルバイトをするもよし、旅行に行くもよし。好きなこと、興味があることをとことんやってみてください。食べ物や音楽、服や科目など、どんなものでも自分の世界が広がると、自然と知りたいことや一生懸命にやりたいことが見えてくると私は思っています。そしてその経験が将来に必ず繋がると思います。私もまだまだ自分自身を模索中ですが、たくさんの方所で多くの人から刺激をもらい、新たな自分を知る楽しい毎日です。皆さんにとって、大学生活が将来に繋がる充実したものとなることを願っています。



田中 香凜

医学部保健学科
理学療法学専攻3年

理由付けなんてしないで、なんでもやってみる！

自分の意志で弘前大学を選んだ皆さんも、選択肢がなかった皆さんもいることと思います。そんなこんなで始まった大学生活はいかがですか？大学生は自由だと例える人もいますが、その自由の根本には家族や親しい方達の支えがあることを忘れないでください。

さて、一番伝えたいことは題名の通りです。よく耳にする“日々自分次第”…大学生に限ったことではありませんが、もし気が向いたら夢や目標、やりたいことを書き出してみてください。『不安だ、時間がない、きっと出来ない』など鬱陶しいことは忘れて、直感で気楽に書き連ねていくと楽しいです（少なくとも私は）。あとはどれをいつまでに叶えたいかイメージすれば、やるのがみえてくると思います。叶えることが出来なくても、初めて知る世界や出会いがあり、それが自分の糧になるのは間違いないので恐れず挑戦してください。

他人の言葉なんて結局無責任です。自分で決断して自分で責任を持ちましょう。何度も挑戦して何度も失敗して、次こそは…という風に向上心を持ってお互い過ごしたいね（^◇^）



坂本 勇太

医学部保健学科
作業療法学専攻3年

出逢いを大切に

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。青森県外から来た人も多く、新しい環境に戸惑っている方も多いかもかもしれません。私も以前は同じ立場でしたが、不安や寂しさに押しつぶされそうになったときに、私を支えてくれたのは大学で出逢ったかけがえのない人たちです。今回は私の経験をもとに、出逢いの素晴らしさを伝えたいと思います。

私の所属する作業療法学専攻は、一学年が約20人と小さなクラスです。だからこそ、横の繋がりとともに縦の繋がりが非常に強く、多くの人々と出逢うことができました。現在3年生となり、勉強や実習など大変なことも多いですが、仲間たちの支えに何度も助けられています。本当に感謝しきれません。

また、専攻以外にもたくさんの出逢いがありました。私は空手道部に所属しており、そこで様々な学部・学科の部員に出逢いました。それぞれ自分の進む道は違っても、空手という共通の目的を持って一生懸命取り組んでいます。この経験はこれからの人生にきっと何らかの形で活かされると信じてやみません。

新入生の皆さんにも、かけがえのない出逢いが絶対にあると思います。どうかその出逢いを大切に、大学生活を楽しんでください。



宇野 陽也

理工学部
機械科学科1年

これからの生活

「続ける力」、これからの生活で常に私が心がけたいことです。

私は夢があり弘前大学を受験しました。その夢を叶えるにはたくさんの犠牲と努力が必要であると私は思っています。大学に入ってから自由である時間、自分の時間が増えました。その時間をどう過ごすかでこれからの人生が決まるのではないのでしょうか。そこで私はたくさんのことを学び、深めていきます。そして必ず夢を叶えてみせます。

さて、弘前大学の一員になったからには、これからは社会に出ても恥ずかしくないように日々を過ごしていくとともに、一つ一つの行事を楽しみ、たくさんの先輩や教授の方々から、いろいろなことを吸収し自分の力にしていきたいです。

勉学、研究に勤しむこと。楽しむこと。感謝すること。以上のことを「続ける力」によって成長させていきたいです。続けることは難しいことですが、弘前大学に入学したからには成長し、成功したいです。

大学生活を送るにあたり今までたくさんの方々を支えられてきたことを実感しました。その方々に感謝をしつつ、これから私と関わってくださる方々に挨拶いたします。ありがとうございます、これからよろしくお祈りいたします。



滝澤 大夢

理工学部
数物科学科1年

遂に大学生！

気が付けば弘前大学に入学してからはや1ヶ月、入学当時友達作れるだろうか、授業どんな感じだろうかという不安に思っていました。ガイダンス、イベントを通し友達もできてだいぶ大学生活に慣れてきました。

私は中学、高校とずっと数学が好きだったので大学でも数学を学びたいと考え数物科学科を志望しました。大学の数学は高校とは一味違い、一筋縄ではいかないところがあると思いますが、粘り強く取り組んでいきたいと思えます。また、私は数学と同じくらい歴史も好きなので、日本史の講義も取り、毎回楽しみにしています。

勉学以外の面では、新しく競技かるたを始めました。今はまだ全く札が取れません。いつも先輩方からアドバイスを頂いて参考に練習しています。いつか先輩方のように素早く、迫力ある競技かるたをしてみたいです。また、ずっと旅行がしたいと思っていたので、4年間で47都道府県いくつ制覇できるかチャレンジしてみたいです。

自分は結構怠け者です。しかし、大学4年間はあっという間です。だから、時間を無駄にしないようにすることを心に留めておいて、明日も楽しみだと思えるような大学生活を送りたいと思います。



小野 譲暉

理工学部
自然エネルギー学科1年

充実した4年間へ

こんにちは。五所川原市出身の譲暉です。あっという間に、弘前大学に入学して早くも1ヶ月が経ちました。私が所属している自然エネルギー学科は先輩が二年生までしかおらず人数も少ないので不安でしたが、先輩がお花見会などを企画してくれた事などのおかげで不安がなくなり、大学の生活もだんだん慣れてきました。最近の悩みは「選択肢が多い」ということです。大学生になり自由が増えたために、やれる事ややりたい事がたくさん増えました。そのため何をすれば良いのか迷ってしまいます。高校の時は、先生に何を勉強するのか、勉強はどうすれば良いのか、ほとんど指示がありましたが大学では全て自分で考えなければなりません。これから私は、もう一度将来のことや勉強したい事を考えて一つ一つ様々なことに挑戦していきたいと思えます。また大学では多くの人と出会い、そして関わる事ができます。入学前はどんな人がいるか分からず心配にもなりましたが、弘前大学はとても優しい人が多く、知り合いもたくさん出来るので心配はいりませんでした。言うまでもなく、大学で一番大切なのは知識を身につける事です。しかし、色々な人と出会い、新しい考え方などを共有していけたら、もっと素敵な大学生活になるのではないのでしょうか。



佐藤 大紀

理工学部
地球環境学科4年

新入生の皆さんへ

新入生の皆さんはそろそろ大学生活にも慣れてきた頃ですか？せっかくの機会なので今回は真面目な話をしようと思います。大学生活の楽しい過ごし方については学科やサークルの先輩に聞いてください。(笑)

皆さんは将来的に自分が何になりたいか考えたことがありますか？もちろん決まっているという方もいると思います。そんな方はすごいと思います！就活もしくは院試の際には大学での成績も必要になるので成績に気を付けながら大学生活を楽しんで欲しいなと思います。

やりたいことがない方。自分もそうでしたが、今思い返すと毎日をただ漠然と大学生活を送っていただけでした。成績がいいわけでもなくどこでもいいから就職出来たらいいなと考えていました。

そんな自分でも4年になってやりたいことがようやく見つかったのですが、目標があるとそれに向かって頑張ることが出来るし感じる楽しさも段違いです。新入生の皆さんには大学でやりたいことや将来的になりたい職業を早いうちから考えてみて欲しいです。簡単に見つからないかもしれませんが大学ではたくさんの出会いや経験を得るチャンスがあります。是非いろんな活動に参加してみたり、随時情報をチェックしてみたりしてください。

皆さんの大学生活がよりよいものになることを願っています。頑張ってください！



松谷 朋治

理工学部
物質創成化学科4年

自分らしく

新入生のみなさん、入学してからあっという間の二か月だったと思います。どうでしょう、大学の生活リズムには慣れましたか？高校などと違い、大学ではスケジュールを自分で決定・管理していかなければならないので、しっかり自律した生活を送れるよう生活リズムを定着させましょう。

さて、唐突ですが私の好きな、ある方の言葉でこのようなものがありました。

「無いものねだりより、有るもの“武器”を磨け」

まあ、ありきたりな言葉ですね。端的に言えば「自らの長所・個を大切に、伸ばしていけ」ということだと思います。大学ではより専門的なものを学んでいきます。もちろん、ある程度の知識・基盤（教養）は重要です。しかし大学生となった今、好きなこと・得意なことについて学び、特化させていき、プロフェッショナルに近づいていくのがよいのではないのでしょうか。また、一人ひとり別の生き物なのですから、何をすることも時間のかかり方は違います。受験と違い、学んでいく中で周りの人との比較も特に気にする必要はないと思います。自分らしく学んでいきましょう。偉そうに言っていますが、自分自身も武器をつくり、磨いている途中段階です。お互い頑張っていきましょう。

最後に、新入生のみなさん、ご入学おめでとうございませう。



秋元 恭太

理工学部
電子情報工学科4年

プラスアルファを得る

皆さんはすでに大学生、研究のための学習をして当然の立場です。大学生活では勉強をこなすのはもちろんですが、それ以外のプラスアルファの経験をいかにして得るかが大事であると考えます。

大学生活で頑張ったものは何か？と聞かれた時、私の場合は資格試験取得と学生組織での活動である、と自信を持って答えることができます。

資格試験では基本情報技術者やプロジェクトWETを取得、試験勉強を通して、システムの開発や管理、監査に必要な知識や考え方のモデルを知ることができました。現在はさらに上位の試験に取り組んでいます。

学生組織としては新入生サポートセンターでの勤務や総代会での意見交換へ参加しました。複数の立場から一つの組織と関わったことで、組織の意義や運営の難しさについて知ることができました。

新入生の皆さんには様々な経験を積むことをお勧めします。なぜこんな勉強をしなければならないのか、この知識はどこで役に立つのか、なぜこんな活動をしているのか、なぜこんな面倒な手続きが必要なのか…。日頃から持っている疑問について、実際に経験することで納得することができる、そういうことが多いはずですよ。

大学生には自由時間が多く存在します。この自由時間の使い方によって何かが変わるかもしれません。自分に言い訳せず、興味を引いたものに積極的に手を出してみてください。



下田 果歩

農学生命科学部
生物学科1年

大学生活を始めて

弘前大学に入学して2週間がたった今、私を感じたことは2つあります。

1つ目は、自分が好きな学問を究められる楽しさです。今までの3つの学校とは違い、自分で時間割を決めて授業を受講する分、より楽しく勉強ができ、将来何がしたいかなどを明確に決めるきっかけが増えたと思います。全休があり生活をリセットする日も確保できました。

2つ目は、一人暮らしが想像以上に大変だということです。高校の時や、一人暮らしを始める直前までは、学校以外の時間は自由に町を散策したり、趣味のお菓子作りを楽しく出来たりするのではないかと漠然と思っていたのですが、引っ越しが終わり両親が帰ってしまった時から見事に期待を裏切られました。皿洗い、洗濯、料理、ゴミ捨て、何から何まで一人でやるということは、大変であり、時間やお金も想像以上にかかるということを思い知らされました。お菓子作りなんてもってのほかでした。

2週間暮らしてみても、授業に遅刻しかけたり、ストレスで口内炎が出来たりと大変なことはたくさんありましたが、生活に慣れてきた今、自分の行動に責任を持ちながら、たくさんの事に「チャレンジ」して、「最後の学校生活」「社会に出る前の最後のモラトリアム」を友人と、先生と、謳歌したいと思います。



穂森 雄一

農学生命科学部
食料資源学科1年

大学生として

弘前大学に入学してから一ヶ月が過ぎました。この一ヶ月間、僕は新生活に慣れようと必死でした。大阪を離れ、青森へとやってきた自分は新しく始まる生活にとっても大きな不安を抱えていました。しかし、そんな自分から不安を取り除いてくれたのは新しい友達、先輩方、先生方でした。こんなに素晴らしい人達と出会えて、弘前大学に入って本当によかったと思います。

大学は高校と違って自分がやることを自分自身で自由に決めることができます。それだけに、時間を無駄に過ごすことは何よりも大きな愚行と言えます。好きなこと、専門的なことが自由に学べる大学という場で、一分一秒無駄にすることなく学問に励みたいです。

4年間の大学生活を終えた時に自分が今まで何をしてきたのか自信を持って言えるように、また、家族に一人前となった自分を見せることができるように、初心を忘れず最後まで全力で大学生活を送りたいと思います。



岩島 綾耶乃

農学生命科学部
国際園芸農学科1年

向上へ

弘前大学は、私の第一志望ではありません。自分の力足らずでこちらに入学しました。

しかし、大学の勉強は本当に楽しいものです。専門科目の食料経済論、教養科目の言語学や心理学など自分が趣味で考えていた学問の専門家の話を聞き、直接話し合えるのは非常に幸せなことだと思います。自分の考えを深めるには最高の機会です。さらに学部を問わずたくさんの友達ができました。出身地が皆異なるので、地域ごとの興味深い話が聞けて面白いです。故郷仙台市を見直す良いきっかけになっています。

それでも、やはり物足りません。弘前大学に足りないもの、それは積極性です。私が偶然次のような学生や職員にばかり出会っているだけかもしれませんが、自分の意見をはっきり言えなかったり、人と話す態度が雑だったり、何もかも他人任せにしたりする人が多いと感じます。大学進学前には当たり前だった行動力に満ちあふれた環境がここにはありませんでした。これだけは、どうしても不満でなりません。だから、前の学校の感覚を忘れないため、消極的な環境を変えていくため、私は少しでも興味を持ったことは何でも挑戦するよう心掛けています。おかげで今までよりもアクティブな生活を過ごしています。自分の積極性を高めるには弘前大学は適所かもしれません。



松本 拓也

農学生命科学部生物学科3年

がんばれ新入生

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活が始まり数か月がたち、新しい環境にも慣れてきたころでしょうか。

大学生はこれまでの学生生活とは大きく異なります。時間割は一人一人違っており自由時間もたくさんあります。また二か月にも及ぶ長期休みが年に2回もあるので自分がこれまでやりたかったことがいくらでもすることができます。また自由時間が多すぎるために授業をサボったりなど怠惰な日々を過ごさないよう充実した4年間にしてほしいです。私自身2年生に入ってから授業をサボりがちになり出席しても90分間爆睡したりして時間を無駄にしまいました。初心忘れるべからずということわざがあるように新入生のみなさんはこんな大学生にならないように気を付けてください。

また学業に支障が出ない程度でいいのでアルバイトすることをおすすめします。先ほど大学生は時間があるのでいろんなことを挑戦できますがそれにはお金が必要です。またアルバイトで大学生以外の人と交流を持ったり、お金を稼ぐことの苦勞、達成感を味わうこともでき、社会勉強にもなります。こうした経験は絶対将来的に役に立つでしょう。

大学生は社会に出るための最後のモラトリアム期間です。4年間たくさんのことを経験したことは人生における財産となるはずで。皆さんの大学生活がより良くなることを願っています。



石村麻里奈

農学生命科学研究科
農学生命科学専攻
分子生命科学1年

在学生からの応援メッセージ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。弘前大学へようこそ。苦しい受験を乗り越え、晴れて大学生になり、ひろいひろい世界が見え始めていることでしょうか。今は、授業が朝からぎっしり詰まっている人もいるかもしれませんが、単位は落とさない程度に、思いっきり楽しんで、好きなことをして、毎日たくさん疲れてください。友人や恋人と、色んな所に行って、色んな体験をしてください。大学4年間は自分で選んだ道を自分の思うように進める貴重な時間です。

私の話になりますが、私はいま大学院生として研究に没頭しています。まじめに進路について考え始めたのは、研究室配属後の3年の後期からで、それまでは授業をなんとかやり過ごし、遊びとバイトに没頭していました。そんな私の院進学を決め手は、人生1度きりだし、院行ってみようかな～、という漠然としたものでした。プラスアルファで就職の幅が広がる、給料が高い、という事もあります。しかし今では、卒研を乗り越え、さらに自分の研究分野への興味、理解が深まったことで、とても充実した研究生生活を送っています。少しでも興味がある人には、ぜひ進学を進めます。大学はやりたいことができる場所です。待っていても蝶は来ないかもしれません、どんどん行動して下さい。



山田 郷

農学生命科学部
地域環境工学科3年

充実した大学生活を

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。弘前でのご新生活が始まり、新しい環境に慣れ始めてきたのではないかと思います。突然ですが大学生活は4年間しかありません、部活やサークル、アルバイトに勉強などたくさんのことを経験するには長いようで短いです。なので、興味があること、やってみたいことがあれば思う存分挑戦していくと良いと思います。しかし大学生活は自由な時間が多い分、自己管理が重要です。講義にはしっかり出席し、課題の提出やテスト勉強を怠らないことが充実した大学生活を送る上で必要になってくると、私は3年になって身に染みてわかってきました。新入生の皆さんは自分の目標をしっかりと定め、時間の使い方について考えてみて下さい。

最後になりますが大学生活で経験できることはたくさんあり、1つ1つが大切なものばかりです。しかし、それらを有意義なものに出来るかは皆さんの努力が必要です。何かに挑戦して苦しんでいる時、友人は自分の支えになり、そうして出来た思い出は皆さんの力になるはずで。なので、新入生の皆さんは何事にも全力で挑戦し、大学生活をより良いものにして下さい。



STUDYING ABROAD REPORT

海外だより



人文学部人間文化課程
欧米文化コース3年

太田 凜花

私は、2017年2月から約一年間ハンガリーのデブレツェン大学に交換留学生として滞在する予定です。デブレツェンに来てから、約三ヶ月経ちました。まだまだ知らないことばかりですが、デブレツェンを含め、ハンガリーでの留学の様子をレポートします。

私が留学先にハンガリーを選んだのは、第一言語が英語ではないからです。ハンガリーの公用語は、マジャール語、通称ハンガリー語です。ハンガリー語は勉強したことがなく、そのような全く知らない言語の土地に無知で飛び込んだら、新しいことがたくさん経験できると思いました。また、弘前大学にいるヨーロッパからの学生はほとんどが英語を流暢に話すので、どのように勉強しているか、自分の目で確かめてみたいと思っていましたし、英語が第一言語ではない、ということはお互い対等の立場で英語を学習できると思ったので、ハンガリー留学を決めました。



中心街の街並み

デブレツェンは、学園都市と言われており、首都ブダペストに次いで2番目に大きな都市です。人口は約20万人なので、弘前市より少し大きい街です。デブレツェン大学以外にも大学やアカデミーがあるので、学生がたくさんいます。ハンガリー人の第一印象は、「冷たい」です。特にお店の店員や、事務手続きをしてくださる方など、大抵の人が無愛想で、むすっとしています。後から分かったことなのですが、実は、多くの人は冷たいのではなく、シャイなのです。しかも、私の見た目が明らかにアジア人なので、アジア人と接する機会が少ないハンガリー人は緊張するのだそうです。それが分かってから、私は笑顔で元気に挨拶するようにしたら、みなさん笑顔で返してくれるのです。最初は愛想悪いな、という印象だった寮の受付の女の子も、今では相手から挨拶してくれるようになってこれはとても嬉しいです。

授業は基本的に、デブレツェン大学の英語専攻の学生と一緒に英文科の授業を履修しています。ヨーロッパにはエラスムス、という留学制度があり、こちらの留学生といえば、それを利用して留学

に来ている学生がほとんどです。しかし、私を含め日本、そして韓国や中国、トルコからの学生もいて、彼らは交換留学生という身分になります。ヨーロッパのさまざまな国から来た学生と授業を履修することを想像していましたが、エラスムスで来た学生は、化学や法律、食品加工等を勉強するため、英文科の留学生は中国やトルコなどのエラスムス以外の生徒がほとんどです。なので、エラスムスの学生と一緒に授業を履修することはありません。先ほども述べたように、ハンガリー人は基本的にシャイなので、学生は人前で英語を話すのが恥ずかしいのか、授業はあまり活発ではありません。毎回同じ学生が終始発言していて、他の生徒は先生が問いかけても黙っていることが多いです。勝手にこちらの学生は積極的だと思いこんでいたので、これは新たな発見でした。しかし、週に二日、ハンガリー語の授業を履修しています。これは必修ではありませんが、私自身言語を勉強することが好きで、大学に入学してからフランス語、スペイン語、韓国語を少々勉強したので、せっかくだからハンガリー語も、と思って履修しています。これは、クラスメー



弘前大学に留学していた学生とハンガリーで再会



ハンガリー語のクラスメイトと先生

トがイタリア、ポーランド、フランス、メキシコ、トルコ、中国ととても多国籍で雰囲気も和やかでとても楽しいです。

現在、大学の寮で生活しています。寮はいくつかあり、渡欧前に希望を出すことが出来ました。デブレツェン大学からの留学生にどの寮がいいか聞いて、一番新しく、大学に近いという寮を希望しました。私の部屋は二人部屋でルームメイトが一人、ハンガリー人の女の子です。各部屋にトイレとシャワールームがあって、共有です。キッチンも各階にあって、多くの人とシェアしますが人でごった返すことはまずありません。ルームメイトがなんとか英語を話してくれるので、お互い生活はできています。しかし、一人暮らしに慣れている人、人と寝室を共有できない人には厳しいものとなります。私は自分の部屋というのは寝るためだけに帰ってくるのではなく、一番リラックスできる場所であるべきだと思っているので、今学期が終わったら、フラットに引越ししたいと思います。学期始めにはほぼ毎日どこかの部屋でパーティーがあり、音楽を大音量で流し、他人の部屋の前で立ち

話も普通にあります。学期が始まっても毎週水曜日はパーティーがあり、静かにして、と言えいいのですが、パーティーしているのは一人や二人ではなく、階全体が、という感じなので、どうしようもありません。ゆっくり寝たい、休みたい、という方にはお勧めしません。大学に近く、バス停も近いので中心街にも行きやすいのですが、洗濯機も使えるのは一か月に二回という規則があることも相まって、なかなかハードな寮生活です。一生に一度の経験、ということでもいい思い出にしようと思っています。

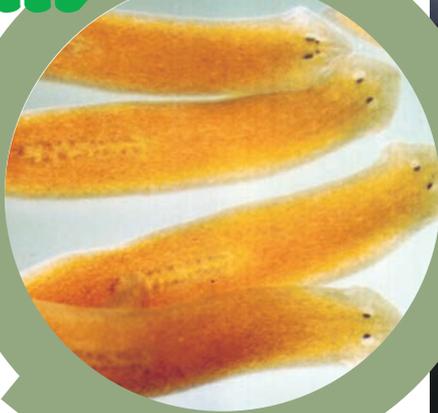
ハンガリーの通貨はフォリントです。物価は、ヨーロッパ内では比較的安いと言われています。個人の印象として、食品は非常に安いと思いますが、シャンプーや洗剤等の日用品はピンからキリまでですが、日本と同じくらいです。

しかし、交通費がとても安く、学生ならば国内のチケットは半額なのでいろいろな場所に行きやすいです。私がハンガリーでおすすめしたい場所は、バラトンです。ハンガリーは内陸国なので、海はないのですが、大きな湖、バラトン湖があり、ハンガリー人は「ハンガリーの海」と呼んでいます。言葉を失うくらい非常にきれいです。

留学前からキラキラした生活だけを想像していたわけではなく、ある程度の覚悟はしていましたが、異国での生活は想像を絶する程大変です。しかし、私は不思議とホームシックにはなっていません。たった三か月ですが、日本にいた時よりずっとたくましくなったと思います。留学生活はまだまだなので、積極的に荒波に揉まれにこころと思います。



バラトン湖



発生・生殖生物学研究室 准教授 小林 一也 Laboratory 探求心を育てる

はじめに

発生・生殖生物学研究室は2012年4月に私が着任して、今年度で6年目を迎える若い研究室です。研究動物は驚異的な再生能力を持つことで有名で、発生・再生生物学の優れた材料であるプラナリアです。実は弘前大学は日本のプラナリア研究の発信地で、第12代弘前大学長であった手代木 渉先生が1950年に文理学部に着任して以来、約70年の歴史があるのです。私は理学部生物学科に1990年に入学し、手代木先生から研究室を引き継がれていた石田幸子先生の研究室を希望しました。石田研では大学院の修士課程までお世話になりまして、その後、東京工業大学大学院で学位を取得しますが、私は研究者としては非常に幸せ者で、この時に自分で持ち込んだ「プラナリア生殖様式転換機構」の研究テーマをこれまで一貫して続けられています。今回、ここで研究室紹介の機会を頂戴しましたので、その研究内容をご紹介します。研究室紹介は大学院生の宮下 奏一郎君に執筆してもらいました。

研究内容

ヒトを含む哺乳類の生殖様式が有性生殖に限定されているために見過ごされがちですが、性を伴わないで生殖が起こる無性生殖を行う動物も多く知られています。そして、有性生殖と無性生殖を環境要因や世代で切り替えているものがほとんどです。有性生殖と無性生殖にはそれぞれメリットとデメリットがありますが、2つの生殖様式を転換することでそれぞれのメリットを「いいとこどり」した生殖戦略になっていると考えられます。しかし、この生命の根幹に関わる現象のメカニズムは解明されていません。その理由として環境要因や世代による生殖様式の転換を研究室で再現することが難しいことが考えられます。

1973年にプラナリア無性個体に別種の有性個体を餌として与えることによって有性化が引き起こされることが報告されました。この研究によって、無性個体に雌雄同体性の生殖器官を誘導する異科間でも有効な有性個体中の化合物「有性化因子」の存在が明らかとなりました。私は、環

境要因ではなく化学物質の刺激で引き起こすことによって研究室で安定して有性化現象を研究できると期待し、また、有性化因子が明らかとなれば、無性状態から有性状態への転換の仕組みを解明する手がかりになると考えました。検定個体としては、石田先生が1984年に沖縄で採集したリュウキュウナミウズムシ1個体由来するクローン集団、OH株を使うことにしました。1999年に給餌条件や環境条件の検討を重ねることで、全てのOH個体が約1ヶ月で完全に有性化する実験系の確立に成功し、これが私の学位論文となりました。

有性化系の確立から20年弱経ち、この有性化系を使ってプラナリアの生殖戦略に関して面白いことがわかってきました。最近では卵巣誘導に関わる有性化因子としてD体のトリプトファンが関与していることを明らかにしました(Kobayashi et al., 2017 Scientific Reports)。この論文はFaculty of 1000推薦論文に選ばれました。これらの有性化因子が明らかとなればプラナリアだけでなく、他の動物の生殖様式転換機構の解明にもつながるのではないかと期待しています。

学生による研究室紹介

小林研究室には教員1名、ポスドク1名、大学院生1名と学部生6名の計9名が在籍しています。研究室に配属されると各人が研究テーマを持ち2年間、大学院に進学する場合は4年間かけて研究を行います。今までは研究室で30年間維持しているOH株のみを用いて研究を進めていたのですが、最近は自然界のプラナリアにも焦点を当て、様々な場所に採集に出かけています。例えば毎年3月に山形に、年数回沖縄での採集を行っています。4年生や大学院生は毎年開催される動物学会に参加し研究成果の発表を行い、様々な大学・研究機関の学生や先生方と議論を行う機会があります。小林先生やポスドクの関井さんは研究に対してとても熱心でいつでも相談に乗って下さるので、小林研は研究を進めやすい環境だと思います。

新任教員

new face

自己紹介



人文社会科学部 | 准教授 植月 学

2017年4月に着任いたしました。主に学芸員課程と大学資料館の運営を担当させていただきます。12年間の博物館での勤務経験を活かし、地域の魅力を再発見し、伝えられる未来の学芸員の育成と、弘前大学の歩みと今を発信できる資料館作りに取り組んでまいります。研究面では人と動物の関係史を軸に、環境、食といった大学の将来ビジョンに関連するテーマを掘り下げていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



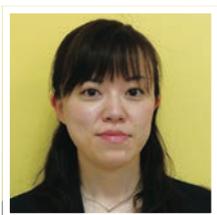
人文社会科学部 | 講師 古村 健太郎

はじめまして。古村健太郎（こむら けんたろう）と申します。「なんであの二人は別れないんだろう？」などの素朴な疑問から生じた興味関心について、社会心理学的な研究をしてきました。弘前は、人が優しく、落ち着いた過ごしやすい街だと感じています。これから弘前大学の教員として自分の研究を少しでも弘前に役立てていくと同時に、一市民として弘前の魅力を満喫していきたいと思っております。これからよろしくお願い申し上げます。



人文社会科学部 | 講師 尾崎 名津子

4月に人文社会科学部に着任いたしました。専門は日本近現代文学です。とりわけ、1930・40年代を中心に、織田作之助作品の分析や、内務省検閲・GHQ/SCAP検閲に関する一次資料の調査を通して、戦時体制下の表現活動・言論活動の実相について考えてきました。葛西善蔵や太宰治など多くの表現者を育んだ弘前でいっそうの研鑽を積みつつ、教育、研究、地域貢献に努めます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



教育学部 | 講師 野寄 茉莉

2017年4月より教育学部幼児教育講座に着任しました。幼児・児童の社会関係や社会性の発達のメカニズムに関心を持って研究しています。

学部生の時には京都の嵐山でニホンザルを追いかけ、大学院生・研究員の時には保育園や幼稚園で子どもを追いかける日々を過ごしてきたフィールド大好き人間です。新しい地で新たに子どもたち（幼児も大学生も）と関係を築けることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願い致します。



教育学部 | 講師 近藤 亮一

今年の4月に赴任しました。英語教育の近藤亮一です。愛知県名古屋市出身です。主に、英語の構文の歴史的变化について研究しています。移住した際には、一日の寒暖の差に驚きました。今は、弘前城の桜とねぶた祭りを楽しみに生活しています。慣れないことばかりでご迷惑をおかけすることとは思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



教育学部 | 講師 杉本 和那美

平成29年4月1日付で教育学部保健体育講座に着任しました杉本和那美（すぎもと かなみ）です。研究では主に跳躍動作の発達過程や運動学習、100mハードルのパフォーマンス分析を行ってきました。弘前大学では、スポーツ運動学、陸上競技、体育科教育に関する講義と実技を担当しています。身体を動かす楽しさや難しさを体験し、科学的な視点で運動を捉える力を学生が身につけられるよう、教育・研究・課外活動の指導に尽力いたします。



教育学研究科 | 教授 敦川 真樹

平成29年4月より教職実践専攻（教職大学院）に着任しました敦川真樹と申します。3月まで37年間青森県内の特別支援学校で勤務しておりました。

平成8年度から発達障害等を中心とした教育相談及び研修会等で、県内各地の小中高等学校、幼稚園、保育所等に訪問させていただきました。これからも学校や地域のニーズに応える支援を進めて参りたいと思います。教職大学院一期生の学部卒業生、現職教員の皆さんの夢と学びに応えられるよう頑張ります。どうぞ宜しくお願いします。



教育学研究科 | 教授 中妻 雅彦

4月より、教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）に着任しました。前任校（愛知教育大学）でも教職大学院の創設に立ち会いましたが、2校も経験できることは貴重な体験だと感じています。教育課程や社会科・総合学習の研究を深めながら、青森県の地域性を生かした学校づくりのできるミドルリーダー教員、創意工夫のある教育実践を進められる初任者教員の育成を進めながら、地域の学校の教育力の向上にお手伝いできればと考えています。



教育学研究科 | 教授 古川 郁生

4月から教職大学院に勤務しております古川郁生（こがわ いくお）と申します。一昨年つがる市立木造中学校校長を定年退職し、丸一年間、朝はゆっくり新聞を見て、時間を気にすることがない生活を送っていました。それが今は朝5時30分に起きるという生活で、ちょっと辛いものがありますが、授業ができるという喜びも久しぶりに味わっています。精一杯頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお祈りします。



教育学研究科 | 准教授 三浦 智子

平成29年4月1日付で教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）に着任いたしました三浦智子（みうら さとこ）と申します。教育行政学、教育経営学といった分野の研究に取り組んでいますが、学校現場における教育実践に向き合う中で、研究の意義や役割を日々模索しながら、教職大学院における学びの発展に少しでも貢献できればと考えています。精一杯力を尽くしてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



教育学研究科 | 准教授 吉田 美穂

4月に教職大学院の研究者教員として着任いたしました。長く神奈川県立高校で教員として働き、その過程で生まれてきた問いに答えを出したくて、10年ほど前に研究者として遅いスタートを切りました。専門は教育社会学で、学校組織文化、キャリア教育、多文化教育などをテーマとしています。これからは、積極的に青森県をフィールドとして調査研究を進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



教育学研究科 | 准教授 吉原 寛

4月に教職大学院に着任しました。これまで新潟県の公立高等学校、県立教育センターに勤めていました。もともとは数学の教員でしたが、様々な生徒に接する中、学校におけるカウンセリングに興味を持ち、児童生徒の学校不適應の改善を目指して研究・実践をしてきました。弘前大学では、学生のニーズに答えながら、地域に根ざした教育・研究活動ができればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



教育学研究科 | 准教授 成田 頼昭

平成29年4月1日付で着任しました成田頼昭（なりた よりあき）です。生まれは弘前、育ちは東北各地。TVドラマ「熱中時代」を見て教職を目指し、平成元年から小学校教員として19年勤務し、その後、指導主事7年、教頭2年を経て弘前大学にまいりました。

このたび開設された教職大学院の目的に向けて、微力ではありますが自分自身学び続けながら精一杯努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



医学研究科 | 教授 藤井 穂高

2017年4月にゲノム生化学講座に着任いたしました。主に、転写やエピジェネティック制御等をはじめとするゲノム機能の発現制御機構の解析を行っています。医学研究科内はもちろんですが、広く他の部局の先生方とも共同研究等を通じて交流させていただければと考えております。また、大学発ベンチャー企業の起業など、産学連携活動にも力を入れたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。



医学研究科 | 准教授 藤田 敏次

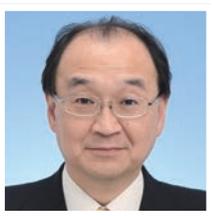
平成29年4月1日付けで、医学研究科ゲノム生化学講座に着任いたしました。専門は分子生物学で、ゲノム機能解析技術の開発をこれまで進めてまいりました。弘前大学では、開発した技術に応用し、生命現象の解明や新規医薬品の開発を精力的に進めていきたいと考えております。また、教育面においても基礎および応用研究の重要性や面白さを学生の皆さんに伝えていければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



保健学研究科 | 講師 山本 美由紀

平成29年4月1日付で保健学研究科看護学領域に着任しました。専門は公衆衛生看護学で、これまで「その人らしく暮らすことのできる社会づくり（エイジング・イン・プレイス、Aging-in-Place、AIP）を支える医療人材の育成」の教育・研究に携わってまいりました。

本学では、微力ながら青森県を長寿県に向けられるように教育、研究、地域貢献に努めていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



理工学研究科 | 教授 岡 和彦

平成29年4月に理工学研究科に着任いたしました。専門は光を使った精密計測制御で、主に偏光を鍵とした基礎的な研究を行ってきました。これからは研究の中心を応用にシフトし、特に医用生体応用を念頭においた機器の研究を進める所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



理工学研究科 | 教授 今西 悦二郎

平成29年4月1日付けで理工学研究科知能機械工学コースに着任しました。

専門は建設機械のダイナミクス性能予測であり、油圧ショベルの省エネ技術の研究開発などに携わってまいりました。これからは、国土交通省が推進している、ICTを活用した情報化施工技術である「i-Construction」の一環として、建設機械のロボット化に向けた活動や、医工連携テーマ、地域連携テーマなどに取り組みたいと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。



理工学研究科 | 教授 村田 裕幸

平成29年4月1日付けで理工学部機械科学科に着任しました村田裕幸と申します。これまで国の研究機関で船舶用原子炉の事故時の熱水力挙動、固気混相流の熱流動に及ぼす船体運動の影響、燃料電池の船舶への適用に関する研究開発等に携わってまいりました。

弘前大学では、皆さんと一緒に、これまで培ってきた知識と経験を生かしながら様々な活動に取り組むことができると考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。



理工学研究科 | 教授 中村 雅之

4月1日付けで理工学部機械科学科に着任いたしました中村雅之です。専門は計測制御工学分野、特に情報センシングと機械学習などの知能化処理を結び付けた機械情報系の研究をしています。実世界から有用な情報を抽出し制御する方法やわかりやすくデータを再構成する仮想空間情報処理、そしてそれらのアプリケーションに興味があります。この分野で学生さんと一緒に研究できればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



理工学研究科 | 助教 峯田 才寛

2017年4月1日付で理工学研究科・機械科学科・助教を拝命いたしました、峯田才寛と申します。専門は日本科学界における「お家芸」の一つである材料工学であり、身の回りにある材料を如何にすれば「より高強度にできるのか?」、「より高変形能にできるのか?」という問題に取り組んでいます。弘前大学では、生体材料・医療材料への応用を視野に入れつつ、科学の発展へ貢献したいと考えております。よろしくお願いたします。



理工学研究科 | 助教 宮川 泰明

平成29年4月1日付で理工学部機械科学科の助教に着任いたしました宮川泰明（みやがわ たいめい）と申します。静岡県出身で、平成29年3月に学位を取得したばかりです。専門は計算生体力学、数値流体力学で、主に胃の中の食物の流れに関する研究をしています。

助教1年生の未熟者ですが、皆さんと共に、弘前大学や弘前市・青森県の発展に貢献できるように精進いたします。どうぞよろしくお願いたします。



理工学研究科 | 助教 渡邊 良祐

2017年4月から理工学研究科に着任いたしました。これまでは、太陽電池の効率向上に関する研究や、メタマテリアルと呼ばれるナノ構造により生じる、新規光学応答に関する研究を行ってきました。弘前大学においても、太陽電池、また、表面改質による新規物性の発現に関する研究を、原理の理解からデバイス応用までさらに深めていく所存です。じっくりと考え、かつ着実に歩んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いたします。



農学生命科学部 | 教授 中島 晶

平成29年4月1日付で農学生命科学部に着任しました。これまで、中枢神経系に対して作用を有する化合物の薬理作用や毒性について研究してきました。今後は、これまでの経験や知識を活用しながら、機能性食品の開発や地域への貢献に向けて皆さんと一緒に取り組みたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。



農学生命科学部 | 准教授 佐藤 孝宏

2017年4月に農学生命科学部国際園芸農学科に着任いたしました佐藤孝宏と申します。専門は国際農業開発論で、インドや東南アジアを対象として、環境や技術、制度の変化が農村社会に与える影響を社会科学的観点から分析してきました。自身のこれまでのシステムエンジニアとしての業務経験や国際農業研究機関での研究経験も踏まえながら、持続可能な社会の構築に向けた文理融合型学際研究を推進するため、全力を尽くす所存です。



農学生命科学部附属生物共生教育研究センター | 助教 林田 大志

美味しい・香りが特徴的・加工向き（ジュースなど）・病気に強いなど消費者、農家および企業のような様々な要望に応えた新品種の育種・登録を行っており、それら新品種の栽培および生理学的研究を行っています。また、市町村や企業などと協同して新品種のブランド化などの活動も積極的に取り組んでいます。藤崎農場という自然豊かなフィールドを活用した研究をしたい方は、気軽に声をかけて下さい。



北日本新エネルギー研究所 | 准教授 吉田 暁弘

平成29年3月に北日本新エネルギー研究所に着任いたしました。私の専門は化学で、現在までに、触媒化学、無機化学を基盤として、新たな触媒材料やエネルギー貯蔵材料の開発研究を行って参りました。今後は、触媒開発を核として、地域特有のバイオマスのエネルギーや有用物質への高効率転換を実現すべく研究に取り組み、地域へ貢献できる成果を挙げるべく努めたいと考えております。どうぞ、よろしくお願致します。

弘前大学学生ボランティア活動 助成団体採択書交付式を実施

学内外でボランティア活動を実施している本学課外活動団体への活動助成費採択書交付式を平成29年6月20日（火）に事務局2階特別会議室で行いました。

交付式では、佐藤学長から今年度申請のあった8団体の各出席者一人ひとりに活動助成費採択書が手渡されました。続いて、各団体出席者から日頃の活動内容について、紹介がありました。

佐藤学長からは、「ボランティア活動団体の皆さんが日頃から積極的に活動を行っていることに感謝いたします。皆さんの活動は、地域における弘前大学の価値と存在感を高めることに大いに貢献しています。ボランティア活動によって、活動に携わる皆さん自身が学ぶことはもちろん大きなことですが、ボランティアの対象となっている方々にも感謝の気持ちを忘れぬよう活動を続けていただきたいと思います。」と学生の今後の活動に期待を祈念する言葉が贈られました。

交付式に続いて懇談会が行われ、各団体出席者から、ボランティア要請への対応状況、本学への要望事項等について、率直な意見交換が行われました。また、地域における活動についても話題となり、今後の活動内容の充実を図る上でのヒントとなりました。



交付式後の記念撮影

平成29年度 ボランティア活動助成団体

団体名	申請代表者名	所属学部
児童文化研究部KIDS'	荒内 駿介	教育学部
僻地教育研究会	八桁 一平	理工学部
S a B o T e n (サボテン)	山田 萌夏	農学生命科学部
teens & law	山口 夏輝	教育学部
キャリアサポート研究会	田中 秀樺	人文社会学部
ひまわりサークル	中川 雄太	医学部保健学科
さくらボランティア	中川 ちひろ	教育学部
アダプテッドサークル 爽 ～SO～	相内 鈴香	教育学部



編集
後記

本号は、特集として『新学期を迎えて』というタイトルのもと、たくさんの学生さんの声をお届けしています。新年度が始まってしばらく経ちましたが、今年から新生入生として大学生活をスタートし、弘前で新生活を始めた学生さんも多いのではないのでしょうか。

ここで、1つアドバイスさせてください。私自身が恩師から教わったことなのですが、そもそも人生の歩みを進めるには、その人自身に合った方法があって、それを探するために立ち止まったり、時には苦労して進んできた道を戻らなければならないこともあります。先頭を行く人のやり方を鵜呑みにしても、上手いかわないことだってあります。自分に合った方法で、自分のペースで行きましょう。周りが次々と先行して、前に進んでいるよう

に感じたとしても、決して焦ったり、無理に事を進めてはいけません。遠回りが近道だったりします。色々苦しかったり辛かったりしても、最後のゴールにたどり着けば、そこまでの苦労は過程に変わります。

弘前大学で過ごす4年間の中で、まずは自分のペースを掴んでほしいです。そのペースの中で、自分を焦らずに磨いていけば、自分だけのモノの見方・考え方が身につくと思います。大志を抱いて、一緒に楽しく面白い世の中を作っていきましょう。

最後に、本号に原稿をお寄せくださった学生・教職員の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

人文社会学部 小杉雅俊

●知ってる？

弘大生協の環境活動

弘前大学生協では事業活動や組合員活動における環境負荷軽減を推進しています。販売している内製弁当の容器リサイクルを初め、レジ袋使用枚数の削減、割りばしやペットボトルのふたの回収を行っています。また生協学生委員会が中心となり、身近な環境活動にも関わっています。

【割り箸回収】



学生委員会が回収。並べて箱詰めしている様子。

北海道江別市にある「(株)王子特殊紙」へ送付しリサイクルしていただいています。今年の総重量は292.7Kgでした。**※割り箸回収は食堂 Hoerst で行っています。**



割り箸 10Kgで箱ティッシュ 15 箱分。今回は箱ティッシュ約 445 箱分になりました。

【ペットボトルキャップ回収】

特定非営利法人 ECO リパブリック白神が窓口となり青南商事へ納品すると、キャップは再商品処理化され白神山地の保全・環境活動に活用されます。

平成28年度は430kg回収しました。

**※ペットボトルキャップ回収場所は
総合教育棟・教育学部棟・大学会館・食堂 Hoerst です。**



軽バン一杯に詰められたペットボトルキャップ。

【植樹祭】



植樹をしている様子

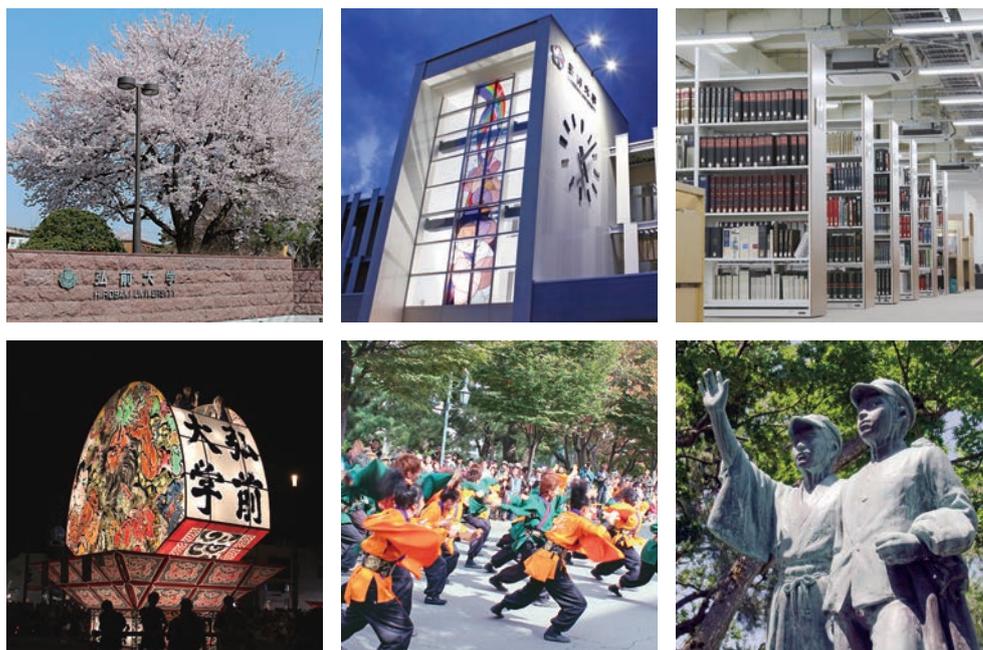
毎年、青森県生協連の“ふれあいの森”の植樹祭に参加をし、実際に植樹を行っています。県内の生協組合員の方が参加できるので大学生協からの大学生や教員の方はもちろん、家族での参加もたくさんいました。

他にも下記のような活動に取り組んでいます。



**環境活動はその影響が目に見えにくいものですが継続して続けることに意味があるのではないかと考えます。日常のちょっとしたことから始めませんか？
ぜひ環境活動にご参加下さい。**

弘前大学生協生活協同組合 (0172-34-4806)



弘前大学

学園だより

Vol.190 2017年6月発行

国立大学法人 弘前大学「学園だより」
 編集委員会

委員長／細矢 浩志 (教育委員会)
 委員／小杉 雅俊 (人文社会科学部)、鈴木 愛理 (教育学部)
 浅野 義哉 (医学研究科)、富澤 登志子 (保健学研究科)
 増野 敦信 (理工学研究科)、大河 浩 (農学生命科学部)
 澤田 祐子 (学生課)、成田 勇一 (学生課)

印刷：コロニー印刷

弘前大学

検索

トップページ▶大学案内▶刊行物▶学園だより
 バックナンバーをご覧ください。